

沖繩平和行進に参加して

高知県遺族会青年部副部長

中岡 美佳

いくつかの戦跡、亀甲墓等、これまで見てきた車窓からの風景も歩きながら見ると違って見え、より沖繩を感じさせてくれた。

「不思議なことに歩いてしまうのよ」「これだけはどうしても来ないといけないと思って来ている」そう語ってくれたのはホテルで同室になった愛知県一宮市の藤本さん。一宮市の遺族会で女性部長をされている方だ。お父様は沖繩で亡くなられたという。

「どうしても：。」という言葉が「もう一回はどうしてもフィリピンに行きたい」と口癖のように言っている母に重なった。

今回、以前から参加したいと思っていた六月二十三日沖繩慰霊の日の平和行進に参加した。高知からの参加は私一人だけだったので不安が無いわけではなかったが、昨年の日本遺族会青年部の勉強会での「青年部は各慰霊祭・慰霊巡拝に積極的に参加していこう」という話が背中を押してくれた形となり、思い切って参加することにした。

当日の六月二十三日は時折激しく降る雨模様。全国から参集した遺族会の皆さんと一緒に糸満市役所をスタートし、平和祈念公園までの八・五キロの道のりを行進した。今年で五十八回目となる平和行進で雨が降ったのは三十年ぶり、梅雨明けしないで迎えるのは初めてのことだった。例年とはにかく暑さとの戦いのなかでの行進という事だが、レインコートを着て歩くのも十分暑苦しかった。このコースは何度かバスで通ったこともあったが、背丈よりも高いサトウキビの畑、

黙々と歩いていく中、声を掛けてくれた地元の方が「昭和二十年六月二十三日もこんな雨で、雨の中を歩いて南へ下って行った」と教えてくれた。

「よかったね。歩けたね」少し足を痛めていた私を心配してゴールで藤本さんが待ってくれていた。昨年手術をして体調に自信が無かったので、途中で救護車に乗り先に着いていたそうだ。続々と到着してくる皆さんも歩ききった満足感で皆、笑顔だった。

翌日、朝から藤本さんはソワソワしていた。何度か行進に参加してきた間に地元の遺族会の方々とも親しくなり、色々聞いたり尋ねたりしている間にお父様の亡くなった場所が分かり現地に行くことになったそうだ。「まさか今回分かって行けるなんて思ってなかったから何も用意していない」と嘆いていたが、念願がない喜びにあふれていた。

「また来年会おうね」と言い現地に向かう藤本さんをロビーで見送った。初めて参加した私を何から何まで気遣って、色々な話をして教えてくれた。また来年この場所で藤本さんに会いたい。

そして行進したい。
今度は高知の仲間も一緒に。